

磐城時報

福島縣石城郡平町字屋敷町
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町字屋敷町
發行所 磐城時報社
一部金貳圓一ヶ月金卅圓
廣告料行先字詰金五十圓
日刊日曜除日外日休刊

閑院宮殿下に 小田氏の篤志を推奨

磐女講堂寄附について

二十四日閑院宮殿下が本縣に台寄附の行爲を推奨して左の如く臨遊ばされ飯坂温泉花水館に於言上した由で、小田氏も大いに徳川家達公を随えさせられ磐面目を施し感泣した由である。城炭礦菅原萬治郎、入山炭礦吉田宗雄、古河炭礦下野十郎、好間村小田吉治、平町諸橋久太郎等石城郡の名氏の外風間善九郎大沼庄兵衛兩氏及び伊藤知事等に晩餐を賜はられた席上、伊藤知事は縣下の状態を宮殿下に言上したが、石城郡の言上に際し特に小田吉治氏の磐城高女講堂

玉川村の宮内助役に 辭職勸告書

村民の連署纏まる

石城郡玉川村は駒木根忠三氏一派の村長取り策から紛擾を醸してゐる事既報の如くであるが縣でも將來を憂慮し紛争解決法で村長改選に必要な村條例改正に認可を與へぬ方針に決定した模様である。同村民有志も宮内村長昇格を策動してゐる一派の野望を早くも見抜き宮内助役坪斥の猛運動を開始し村民の連署を以て勸告する事になつた、辭職勸告理由の大略は左の如きものである。

辭職勸告書
玉川村助役宮内久枝は自己の野望達成の爲め吾人村民を偽造し村政を混亂せしめ玉川村の名譽を失墜し自治の本体を破壊する背徳的な行爲を以て時玉川の村政に參畫するを許さず
昭和十年十月 日
仍て直ちに引責辭職すべし
炭礦景氣から 湯本町人
湯本人口激増 口動態は
今次の調査により戸數三千百二

福陽美術會員 石城に來る

福陽美術會在京會員左記十名は寫生行脚のため靈山、中村等を經て七日平町に來り八日迄滞在湯本町白水阿彌陀堂、勿來等を視察し畫會を開く。
勝田蕪翠、荻生天泉、坂田青嵐、渡邊晨畝、酒井三良、酒井白澄、角田息谷、渡部浩年、石塚省三、太田秋民。

湯本の香・懐しき情緒 温泉湯本の再現

七万五千圓で復活に着工 昨日愛湯會で正式決定

湯本町に温泉境を再現せんとする温泉復活計畫は同町愛湯會の手で進められてきたが過般來入橋畔の火の見橋はかねて地元寄山探炭大貫副所長により泉脈調附七百餘圓で鐵骨に改造中のと査中のごころ復活の見込充分とごころ竣工したので二十八日午後折紙をつけたので町では三時から第三小學校で盛大な披露式を舉行する。

愛谷江火の見 平町五丁
竣功祝賀會 目愛谷江
話道は筋立つてゐる満更の狂女
といふ人から食堂の女中に雇
ふからその手紙を受け取つた
ので郡山の伯母を欺き十圓を
貰ひ廿五日深更同市のタクシ
車を雇ひ暗の縣道を疾驅廿
六日朝平町に着き驛前の某商
店で「金澤屋」の様子を聞いた
ごころ「食堂」ではなく錦酒屋
だと判明、勤めるのが厭にな
つたといふわけ

同族會社の組織

合法的脱税に當局苦り切る
合資一六八、八一七、七千圓
株式五七、七〇一、五千圓
株式五七、七〇一、五千圓
昨年同期より七十六社の激増
で不況を反映して同族會社の組
織は漸増の一途を進み同族會社
の數は合資一五六、合名三七、

▲勳記傳達 四倉町ヨリ
日支事變に出征した左記六名は
夫々勳記を授けられた。
勳八等鈴木吉三郎、松本春男
菅波新平、庄司操、新妻信治
片寄安吉。

欺れたお洒落れ狂女
危ふく酌婦に轉落
遙々郡山から貸切りで乗込む
奇怪な彼女の申立て

既往六ヶ年間の火災 損害實に卅五萬圓

平署では管内に於ける既往六ヶ年間の火災調査を行つてゐたが件湯本十件、内郷九件が斷然多
損害額は實に三十四万八千六百
八十三圓といふ巨額に達してゐ
る。この回劫火のために負傷し
た人員は合計十一名、うち消防
手六名であつた。

▲大野村長更迭 大野村
長吉田盛治氏は來る三十一日
以て任期満了と成るので此程後
任村長選舉村會を開いた結果同
村醫師木村正夫氏に滿場一致決
定、同氏の承諾も得たので來る
三十一日新舊村長の事務引次を
行なふことである。

大野組頭更迭

大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

▲四倉入營兵 四倉町昭
和十年度入營兵左の如し
十年十二月一日入隊山砲隊第
九大隊長谷川定二、十二月十
日騎兵二十七聯隊鈴木政治、
山砲二十五大隊岡田正見、工
兵十九聯隊吉田和允、長谷川
要太郎、久保木傳次郎、十一
年一月十日鐵道第二聯隊信田
信一、工兵第二大隊鈴木春政
十一年三月獨立歩兵二ノ四小
松寅次郎、全永井清。

▲大野組頭更迭 大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

▲大野組頭更迭 大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

▲大野組頭更迭 大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

▲大野組頭更迭 大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

▲大野組頭更迭 大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

▲大野組頭更迭 大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

▲大野組頭更迭 大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

▲大野組頭更迭 大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

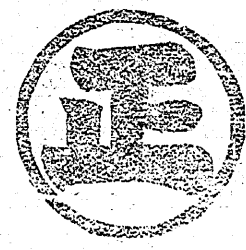
▲大野組頭更迭 大野
村消防組頭木村庄助氏は家事都
三件の上辭職し後任として同村村
議員鈴木明氏が任命された、木
村組頭職七ヶ年功勞者である

平町田町
美味で
評判の
サロン
電三五二

原町郊外 松島教會

松島教會は大教正教主佐藤靈清氏によつて創始された教會です。教主様は不斷の神事により又は哲學、心理學、化學、神學の奧義を極めて神佛信仰に心懸けられたが、人間の現實生活上に於て不幸矛盾を視る時、大自然現象を生みだす根元といふものに就て未だ疑問とするところを持つてゐたのであつた。そして神佛に祈念しつゝ人間の現實生活上に於ける病苦、災難等あらゆる不幸を現實に解決する眞の道を極めることに奮闘努力せられたのであつた。神道之泉社發行松島の教の経歴の如くに研究修行せられ、昭和九年十二月に一大天啓、大悟徹底、万有の根源は神佛にして他に有る無く、人の心靈は神靈と交通して現實に人生一切の問題を完全に解決し得ることを悟られたのであつたさうです。それと同時に「神がかり法」を神授りて、依て大教會設立、立教致して之を公式布教を始められたさうです。松島教會とは既成宗教のやうに神律、教訓、神訓を信徒にあてて信仰せしむる教會ではなく、大自然現象たる神、神示、神宜の教より完全なる絶對的な眞道、神ながらの道を明に教宣して、病氣等全快せしめ、悪しきは眞い方に、苦しきは解消せしめる絶對の心理を説く神意を信徒にお傳する教會であるさうです。唯だ入教者は誠心を以て教を聞き悟ると共に自己(己れ)の業務を後悔のない様に眞剣に勵めば宜しいのです。それで眞に絶對的な心理を悟り誠心を以て信仰してこそ幸福が完全なるのであります。心申しました大教設置運動は勿論大々的布教に着手せられて居ります。(記者)

十月二十七日
二十八日



本年の新作品!
豪華なフアツションシヨールを……
全店陳列致します。是非お越し御好評下さいませ!
シヨール陳列會

期間中の特價品
ISKシヨール 一・八〇

すまげ上し差景組にげ上買御
店品洋野中
三五電二平



最優等賞

於 第十一回福島縣清酒品評會

特約店 平町田町
永山酒店
電話三〇七番

かまぼく
折詰仕出
製造

惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町二丁目(電話一四二番)

産科
婦人科
花柳病科

井坂醫院
平町田町(電話五五九番)

流行
下駄
草履

南町 三井八キモノ店
電話一八一番

カクテル
イキタラテ2552
以外サロシ

はれものの妙薬
八方散
水野藥局
一・平
九九六話電

開院
五十嵐産婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士 五十嵐雄二
電話三七〇番

診療科目
齒科一般
補綴科
矯正科
小兒齒科
齒槽膿漏科
口腔外科
レントゲン科

中野齒科醫院
院長 日本齒科 中野 應次
日本齒科 醫學士 西川 誠
平町田町(松月堂向)
電話五〇九番

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
諸橋久太郎
電話九九

産科
婦人科
外科
藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 内木宗八
藥劑師 立蕃彌一
平町新川町十九
木村病院
電話一六四番